

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

以下の文章を読み、空欄（ A ）～（ J ）に最も適切な語句を記入しなさい。

ローマ教皇ベネディクト16世は、昨年、エディンバラにおいてイギリスの国教会の象徴的指導者（ A ）と会談した。すでに教皇ヨハネ＝パウロ 2 世が1982年にイギリスを訪れたことがあったが、今回のベネディクト16世の訪問は、16世紀にイギリスの教会がカトリック教会から分離した後初めての公式訪問ということで特別な意味を持つものだった。

16世紀、ヘンリ 8 世はスペイン出身の王妃カザリンとの離婚問題でローマ教皇と対立し、自らイギリス国教会を創設し、カトリックの教会から離れることになった。このカトリック教会からの離脱が決定的となったのは、ヘンリ 8 世が（ B ）法を制定した時のことだった。この法は1555年にいったん廃止されるが、その後1559年に新たな形で制定しなおされ、国教会が確立されることになった。

16世紀はカトリックの教会にとって最も困難な時代の一つだった。1517年にルターがドイツのヴィッテンベルクの教会で「九十五カ条の論題」を提示した後、宗教改革の運動が始まり、教皇庁はプロテスタント諸派への対策に迫られることになった。この状況の中でカトリック教会の側でも対抗宗教改革の機運が生じることになった。とくに教皇（ C ）の在位期（1534-49年）に様々な動きが見られた。1534年にはイグナティウス・ロヨラたちによりイエズス会が創設され、1540年に（ C ）により認可された。この修道会は、カトリック教会が対抗宗教改革を進める上で、またカトリックの海外布教などにおいて重要な役割を果たした。日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・ザヴィエルもイエズス会の修道士である。また1545年にはトリエント公会議が開始され、カトリックの教義が再定義・再確認されることになった。

宗教改革の時期はルネサンスの時代とも重なっていた。ルネサンス期のイタリアでは、各地で教会などが壮麗なルネサンスの建築様式や美術様式を駆使して建て替えられたり、新たに建設されたりしていた。ヴァチカンでは、教皇が1377年にアヴィニョンからローマに帰還した後、教皇庁の所在地として確立されたが、その宮殿も多くのルネサンス芸術で飾られていた。その中にある（ D ）礼拝堂も1481年に建築が完成し、その後ボッティチェリなどの芸術家により内部装飾が施された。この礼拝堂は現在でも教皇選挙会議に使用されることで知られている。しかしこの時代の教皇庁の最も重要な建築事業は、サン＝ピエトロ大聖堂の大改築だった。この改築工事は教皇（ E ）（在位1503-13年）によって始められ、次の教皇レオ10世（在位1513-21年）に引き継がれたが、それが完成するのは1626年のことだった。この建設を指揮したのはブラマンテやラファエロやミケランジェロなどのイタリア・ルネサンスを代表する人物であり、サン＝ピエトロ大聖堂はまさにルネサンス期を代表する建築の一つといえるだろう。しかしこの大聖堂の建設費を捻出するために贖宥状が売り出されたことが、ルターの「九十五カ条の論題」が発表されるきっかけとなったのは皮肉なことであった。華美なルネ

サンス期のイタリアにおいて（ E ）や（ F ）家出身のレオ10世の浪費が教皇庁に深刻な財政難をもたらし、また中世に王国の統一を成し遂げることができなかったドイツが教皇庁の財政政策上の主要な対象とされたのは避けがたいことだったのかもしれない。しかしその結果宗教改革の嵐がヨーロッパで吹き荒れることになったのである。

サン＝ピエトロ大聖堂は、かつての古代ローマ市の北西のはずれ、皇帝（ G ）の時代に使徒（ H ）が処刑され葬られたといわれる場所に建てられている。プロテスタント諸教会は認めないが、カトリック教会の教義ではローマ教皇は使徒（ H ）の継承者とされており、その意味でヴァチカンが象徴的な場所だった。313年のミラノ勅令によりキリスト教が公認され、392年にキリスト教が国教とされると、地中海を中心とするローマ帝国の版図は少なくとも公的にはキリスト教圏ということになった。この領域内では、ローマ、コンスタンティノープル、イェルサレム、アレクサンドリア、アンティオキアの五つの総大司教座教会の権威が他の教会に優越するものとして認められるようになっていた。初期の教皇の歴史について詳細は明らかではないが、ローマは（ H ）の継承者として早くから総大司教座教会の中で首位権を主張していた。5世紀にはレオ1世（在位440-61年）が明確に首位権を主張しており、グレゴリウス1世（在位590-604年）の頃には教皇はある程度の実権を持つ存在となっていた。7世紀になるとイスラームが誕生し、征服を開始すると、イェルサレム、アレクサンドリア、アンティオキアはその勢力圏に組み込まれた。また8世紀に教皇庁がカロリング家との結びつきを強め、800年に教皇（ I ）（在位795-816年）がサン＝ピエトロ大聖堂でシャルルマーニュを皇帝に戴冠すると、宗教的に教皇を中心とする西方カトリック世界の形成が明らかとなり、コンスタンティノープルを中心とするビザンツ・東方正教会世界との分裂は確実なものとなった。やがて1054年に東西の教会は公式に分裂した。この後、ローマ教皇権は、グレゴリウス7世（在位1073-85年）の頃から実力をつけ始め、インノケンティウス3世（在位1198-1216年）の頃に絶頂期を迎えることになる。

ローマ教皇が宗教的な意味でカトリック教会の指導者であるということは自明の事実であるが、実は教皇にはもう一つの側面があった。教皇は、主としてローマを中心としたイタリア中部地方からなる領域の世俗的な支配者としての役割も担っていたのである。この領域の基礎となる地域に対する教皇の支配権と世俗裁判権が確実なものとなったのは、古く8世紀のことであった。一般に教皇領もしくは教皇国家とよばれるこの領域は近代になっても存続していたが、19世紀のイタリア統一の過程で消滅することになった。イタリアにある教皇領は1860年末までにローマの領域を除き占領され、翌年に成立するイタリア王国の一部とされ、さらに1870年にはローマ自体も併合されたのである。教皇の支配領域をめぐる「ローマ問題」はこの後しばらくイタリアの政治的懸案事項となっていたが、1929年に教皇庁とムッソリーニとのあいだで結ばれた（ J ）条約により最終的に解決された。この条約により成立したヴァチカン市国は、独立した主権国家として認められ、その地位は現在まで続いているのである。

Ⅱ 以下の文章(イ)を読み、空欄(A)～(E)に最も適切な語句を記入し、かつ①～⑦の設問に答えなさい。またそれに続く関連問題(ロ)に答えなさい。

(イ) ソ連邦および東ヨーロッパの社会主義体制が崩壊してからおよそ20年が過ぎ去った。かつて資本主義に代わる社会体制として構想された社会主義はもはや現実性を失ったかのように見える。

社会主義が資本主義の弊害を克服するための体制として構想されたのは19世紀の初頭である。イギリスでは18世紀後半に始まった(A)によって機械制の大工場が形成されたが、それによって安価な商品が大量に供給され、これまでの家内工業や手工業は没落した。ひとびとは大工場のある都市に集中し、そこで労働者として働いた。当時の労働条件は劣悪であり、ひとびとは不衛生な環境、長時間労働、低賃金に苦しんだ。また手工業者も機械制工場によって生活を脅かされ、機械打ちこわし運動などが頻発した。こうした状況の中、店員奉公から身を立て大企業家にまで上り詰めた(B)は、階級を超えた博愛主義的な立場から産業界の惨状を批判し、スコットランドにある彼の工場村において労働者の生活改善のための社会実験を行った。彼は児童労働の撤廃と労働時間の短縮のために闘い、① 工場労働者保護のための法制度の制定に貢献した。他方、1832年の第一次選挙法改正において選挙資格拡大の対象は産業資本家層をはじめとする有産階級に限られていたため、② 労働者などの大多数は参政権を持たなかった。普通選挙制を求める急進主義はすでに18世紀末に始まっていたが、そのような急進主義の運動が、制限選挙制や新救貧法の撤廃をめぐり、一部に社会主義的傾向を持つ労働者・職人の運動と結びついて③ チャーティスト運動が形成された。この運動は武力行使をも辞さない急進派と、教育や道徳的説得によって社会改革をめざす穏健派とを含みつつ発展したが、1848年の運動の高揚とそれに対する弾圧の後弱体化し、19世紀後半の労働組合運動や協同組合運動に継承されていった。

これに対しフランスでは、イギリスに立ち遅れはしたものの、七月王政期には、すでに地方都市などに成立していた問屋制手工業を基盤として繊維産業が急速な発展を遂げ、(A)が進行した。それにより地主や資本家は富を蓄積したが、労働者の貧困と失業は増大し、工業都市への人口の流入によって状況はさらに深刻化した。他方、パリやリヨンなどの大都市にはなおも膨大な数の手工業者が存在し、徒弟制度や職人組合が存続していた。これらの手工業者や職人は問屋や金融業者の支配の下にあり、しばしば反乱の原動力となった。1830年代にはこうした労働者や職人による反乱が発生し、様々な社会主義思想が形成され、秘密結社も作られた。しかし、フランスの社会主義は何よりもフランス大革命の経験と結びついていた。(C)政府下の1796年に革命的陰謀の廉で捕えられ、裁判の後に処刑された(D)はすでに少数者の武装蜂起による共産主義社会の実現を唱えていたが、この思想はブランキによって受け継がれ、前衛の主導による暴力革命の潮流を形成した。だが、初期社会主義者の多くはむしろ大革命に対して否定的であった。大革命が新たな社会のための産業制度を形成し得なかったと批判したサン＝シモンは、同時代の貧困や階級対立

が自由競争とそれに伴う経済的混乱に由来すると考え、その解決を計画的に管理された産業社会に求めた。彼はその実現を企業家などの産業者による「上からの改革」に期待した。また革命の暴力を拒否するとともに詐欺的商業を嫌悪するフーリエは「ファランジュ」とよばれる農業を主産業とする調和のとれた共同社会を構想した。これらの思想は、国家による上からの社会改革をめざすルイ・ブランによって継承され、実効性は不十分ながらも、④ 貧困や失業の克服のための政策に具現化された。これとは反対に、労働に基づかない私有財産を批判し、自由な生産者の連合と相互扶助による下からの社会改革を唱える思想も登場した。それは後のアナーキズムやサンディカリズムの運動に大きな影響を及ぼした。

他方、領邦分立状態が続く、前近代的制度の残るドイツでは1834年の（ E ）の結成と1835年に始まる ⑤ 鉄道建設を経てようやく（ A ）が開始された。しかし、全人口の約70パーセント以上を農業人口が占めるドイツでは、貧困の多くは、人口の急増に産業の発展が追いつかないことから生じた移行期の貧困であった。また都市への労働人口の集中もベルリンなどの一部の都市に限られていた。とはいえ当時、貧困は焦眉の社会問題であり、一部の官僚や知識人が貧困問題との取り組みを通してフランス社会主義の影響を受けた。それと並んでドイツにはキリスト教批判から生れた ⑥ 哲学的急進主義の潮流があったが、そこから共和主義や共産主義などの急進思想が分化していった。またヨーロッパ各地を遍歴するドイツ人職人によってパリやブリュッセルなどの都市に共産主義秘密結社が形成された。国内の急進的知識人も民主主義的機関誌を発行し、言論・出版の自由などを求めて闘ったが、ウィーン体制下の過酷な弾圧のためにほとんどが国外に脱出せざるを得なかった。こうしてドイツの急進的知識人はパリなどの外国の都市に新たな活動の拠点を求めて結集し、そこで職人の共産主義秘密結社と結びついた後、国際的革命組織を作った。この組織がやがてチャーティストの急進派などと結んで ⑦ 「共産主義者同盟」を結成する。だが、結成後まもなく勃発した48年革命において同盟の活動は少数者の運動に限られ、大きな役割を演ずることはなかった。社会主義が現実を動かす勢力として登場するのは19世紀後半以降のことであった。

- ① 下線部①の法制度を何というか。
- ② 下線部②について、選挙権が都市労働者にまで拡大されたのは第何次選挙法改正においてか。
- ③ 下線部③の「チャーティスト運動」の基本綱領となった文書を何というか。
- ④ 下線部④について、ルイ・ブランらの主張によって失業者救済政策として設立された機関を何というか。
- ⑤ 下線部⑤について、ドイツの鉄道建設において先駆的役割を果たした経済学者は誰か。
- ⑥ 下線部⑥の「哲学的急進主義」の生みの親となったベルリン大学の哲学教授は誰か。
- ⑦ 下線部⑦の「共産主義者同盟」の綱領として48年革命前夜に著された文書を何というか。

(ロ) 以下は19世紀の社会主義者の文章の一部である。これらを読んでその著者の名前をそれぞれ解答欄⑧～⑩に記入しなさい。

- ⑧ 「ニュー・ラナークの村において、はじめはおよそ絶望的な状況下ではあったものの16年間根気よく適用し続けたこの原則によって、村の全性格は変化し、住民は2,000名を数え、新たな移住者が加わった。……この間に法による裁きが行われたこともなければ、住民の一人として教区基金による支援を求めた者もなかった。通りには酔っ払いも見当たらないし、子供たちは彼らのための教育機関で罰を課されることなく教育されている。総じてこの共同体は勤勉、中庸、満足、健康、そして幸福という印象を与える。」
- ⑨ 「共産主義者はその見地や意図を隠しはしない。彼らはその目的が、これまでのすべての社会秩序を力づくで転覆することによってのみ達成され得ることを公然と宣言する。支配階級よ、共産主義革命の前に戦慄するがよい。プロレタリアはこの革命において鉄鎖以外に失うものを持たない。彼らが獲得すべきは世界である。万国のプロレタリア、団結せよ。」
- ⑩ 「私が『奴隷制とは何か』という問いに答えねばならず、それに対して一言で『人殺しである』と答えたとすれば、誰もがこれを即座に理解するであろう。一人の人間から思惟、意志、人格を奪い取る力が生殺与奪の力であること、……このことを示すのにあえて多言を弄する必要はない。しかし『財産とは何か』という別の問いに対して、同じく一言で『窃盗である』とどうして答えられよう。この第二の命題が最初の命題の僅かな変更にはすぎないのに、誰もそれを理解してくれないことは確かなのだから。私は、現代の支配体制と諸制度の原理であるこの財産について論じてみよう。」

Ⅲ 中国と東アジアに関する以下の文章（イ）～（ハ）を読み、空欄（ A ）～（ J ）に最も適切な語句を漢字で記入しなさい。

（イ）古今、洋の東西を問わず、優秀な人材を確保することは、為政者にとって最大の課題の一つである。前漢の武帝が設けた（ A ）の制度は、地方長官が郷里での評判に基づいて有能・有徳な人材を中央に推薦する官吏登用制度である。郷里社会での輿論に基づく制度であるため、地方の有力者である豪族に有利であり、彼らの子弟から数多くの官僚が輩出された。

三国時代の魏では、地方の人材を九等に格付けして、その評価に基づいて中央での官職に任命する（ B ）が行われた。この制度により、有力豪族の子弟が高級官僚を独占する傾向が決定的に強まり、「上品に寒門なく、下品に勢族なし」といわれる状況が現出した。東晋以後の南朝諸国でも（ B ）が継承されることにより、地方豪族の家柄は固定化されて門閥貴族化し、彼らの政治・外交上での影響力は、ときに皇帝をものぐものとなった。

南北朝を統一した隋は中央集権を推進すべく、学科試験による官吏登用、すなわち科挙を実施した。隋は短命に終わり、それに続く唐代にはまだ門閥貴族が勢力を保持していたが、科挙が継承されたことにより、貴族ではない科挙出身の官僚が徐々に政治の場に進出する機会を得た。

やがて唐末五代の戦乱期に貴族が没落すると、（ C ）とよばれる農民からの小作料によって荘園経営を行う形勢戸とよばれる新興地主が、新たな階層として台頭した。彼らは地主としての経済力に加えて、儒教的教養をもって科挙に合格することにより、新興官僚としての地歩を築き、士大夫として貴族に代わる支配層を形成してゆく。

北宋の太祖（ D ）は、「州試」と「省試」を経て、最終的には皇帝自らが「殿試」で試問を行うこととした。かくて制度としての完成を見た科挙を基盤にして、宋代には皇帝と高級官僚が直接的に結びつく文治主義的な独裁体制が整えられてゆく。科挙は元代に一時的に中断された時期もあったが、中国の柱石を担う官吏登用制度として清末まで継承されたのである。

（ロ）前漢の高祖劉邦は、冒頓単于の下で強盛を誇った匈奴と戦って敗れ、多額の貢ぎ物を贈るという屈辱的な講和を結んだ。後の武帝の時代に至ると、積極的な対外政策が展開され、まず西域の大月氏に（ E ）を派遣して、匈奴を挟撃する形勢を作ろうとはかった。この試みは大月氏が応じなかったために失敗に終わったが、外交使節の派遣で西域の情報がもたらされたことにより、武帝は交易を求めてタリム盆地にまで漢の勢力を伸張させ、さらに西方の大宛にも遠征軍を派遣した。また北方では衛青や霍去病らの将軍が匈奴を退け、南方では南越を、東方では衛氏朝鮮を滅ぼし、漢の国威は大いに発揚されたが、度重なる遠征は国家財政に大きな負担を強いることになった。

後漢の光武帝は内政の充実をはかり、対外政策には消極的であった。後に国力が充実するにつれ西域経営への関心が強まり、和帝より（ F ）に任命された班超は、パミール高原に点在する50余のオアシス都市国家を服属させ、はるか西方のローマ帝国とも交流を求めて、部下の甘英を使者

として遣わした。甘英はローマにたどり着くことはできなかったが、砂漠を越え、ユーラシア大陸を視野におさめたことは壮挙というべきであろう。

前漢・後漢の興隆は、東アジアの諸民族に大きな影響を与えた。漢に朝貢して臣従する姿勢を示し、その見返りに官爵を与えられて、中国の権威の庇護の下で自国支配を推進するという冊封体制の国際的秩序が形成された。『後漢書』東夷伝に、紀元後1世紀の半ば、小国が分立していた倭から朝貢の使節が派遣され、光武帝から金印が下賜されたという記述が見えるのもその一例であり、福岡県の志賀島で発見された「(G)」と刻まれた金印がその記録の裏づけをなしているとされる。その後も卑弥呼や倭の五王が、中国の各王朝に朝貢の使節を派遣したことが歴代の歴史書に記されており、中国を盟主と仰ぐ東アジアの冊封体制の中で、日本も新興国家としての経略を行っていたことがうかがわれる。

朝貢による冊封体制は、漢代以後も対象とする地域を拡大しつつ、清朝がアヘン戦争でイギリスに敗れて西洋列強との不平等条約締結を余儀なくされるまで、長きにわたって中国の基本的な外交姿勢として継承され続けたのである。

(ハ) 中国では古代より歴史を記すことに大きな関心が向けられてきた。正史をはじめとする膨大な量の歴史書には、よりよい統治をめざそうとする理想主義的な情熱が込められており、またそこに刻まれた個々の事象には、累々たる人間の営みに対する希望と失望とが激しく渦巻いている。

中国で最も古い歴史書の一つに、孔子が編纂したと伝えられる『春秋』がある。『春秋』は春秋時代の魯の年代記であり、前漢の武帝の時代に『易経』『書経』『詩経』『礼記』とともに (H) と総称されるもののうちの一つに数えられ、儒家の学ぶべき最も重要な経典とされた。『春秋』の記述はあまりに簡潔であるため、その行間に込められた孔子の真意を探ろうとする様々な解釈が後に生じることになる。

後代の正史に最も大きな影響を与えた歴史書といえば、司馬遷の著した『史記』に指を屈する。『史記』は太古から前漢の武帝にいたるまでの皇帝や王侯貴族、政治家、将軍など、特筆すべき各個人ごとに伝記を立てて歴史を記す (I) の体裁を用いている。そこには歴史は人間によって紡がれるものであるとの認識が垣間見え、『史記』以後の正史はいずれもこの体裁で著された。

『史記』の用いた (I) の体裁は、一人の人間が歴史を大きく動かす場に立ち会う躍動感や臨場感を伝えることに優れる。しかしその反面、一つの事件が複数の人物の伝記に別々に記されることになり、全貌をつかみにくいという欠点も有している。それを補うべく、『春秋』にならって年代順に記述する編年体の体裁をとり、歴史の流れを俯瞰しようと試みた代表的な歴史書が北宋の司馬光の著した『(J)』である。戦国時代から五代末にいたる長大な叙述は歴代の歴史書に拠るところが多いが、均整のとれた文体で統一されている。『(J)』は正史には数えられないが、大義名分論に基づく通史として、その歴史解釈の意義からも、後世の歴史学に大きな影響を与えたのである。

今からちょうど100年前、中国で辛亥革命が起こり、アジアにおける最初の共和国が誕生した。これに関する（イ）～（ロ）の文章を読み、各設問に答えなさい。

（イ）中国では辛亥革命が起こる10年前頃から情勢は革命に向かって傾斜し始めていた。以下はその間の諸事象について述べたものである。これらを読んで問1～5に答えなさい。

- A 清朝は民営の幹線鉄道を国有化し、それを担保に4カ国からなる銀行団の借款を得て中央政府の統制強化をはかったが、その政策は外国資本からの利権回収をめざしていた民族資本家たちの激しい反発を招き、四川をはじめとする各地で反対運動を引き起こした。
- B 清朝は義和団事件に起因する連合軍との戦争に敗れ、壊滅的な打撃を受けた。その結果、変法の復活を余儀なくされ、ようやく国政改革に向けての準備を始めることになった。だが、列強の支配下に置かれた清朝の威信は凋落し、「洋人の朝廷」と揶揄されるに至った。
- C 孫文は元来別々に活動していた革命派諸団体を結集させ、東京で中国同盟会とよばれる統一会派を結成した。そして後に三民主義の原型となる基本綱領を作り、清朝を打倒し、革命を実現する方向性を明確にした。
- D 清朝は大日本帝国憲法を手本とする憲法の大綱を發布した。それは皇帝の神聖不可侵や万世一系の条項を含み、王朝の延命・維持のねらいがあったが、同時に立憲制の実行と国会の開設を公約するものになった。

問1 Aの傍線部、4カ国の組み合わせで正しいものを以下から一つ選んでその記号を記入しなさい。

イ 英仏独日 ロ 英米仏独 ハ 英米仏日 ニ 英米独日 ホ 米仏独日

問2 Bの傍線部、義和団事件の際のスローガンを以下から一つ選んでその記号を記入しなさい。

イ 驅除韃虜 ロ 滅満興漢 ハ 反清復明 ニ 恢復中華 ホ 扶清滅洋

問3 Cの傍線部、元来別々に活動していた革命派諸団体のうち国粋色の最も濃いとされた光復会に所属していた人物を以下から一人選んでその記号を記入しなさい。

イ 孫文 ロ 黄興 ハ 宋教仁 ニ 章炳麟 ホ 梁啓超

問4 Dの傍線部、大日本帝国憲法はどここの国の憲法を手本にしたものか。その国を以下から選んでその記号を記入しなさい。

イ アメリカ ロ イギリス ハ フランス ニ ドイツ ホ ロシア

問5 上記のA～Dの四つの事象の記号を時代の古い順に左から正しく並べて記入しなさい。

(ロ) 中国は辛亥革命後もまた真の意味での革命を容易には実現しえなかった。以下、その経過を述べた文章を読み、(A) ～ (E) の括弧内の最も適切な語句を一つ選んでその記号を記入しなさい。

1911年10月10日の(A イ 南昌 ロ 広州 ハ 武昌 ニ 成都)で起こった蜂起を機に各地の革命軍が呼応し、翌年に中華民国が成立した。だが中華民国が名実ともに「民国」になるには前途にさらなる苦難が待ち受けていた。

孫文は革命を成功させるため就任したばかりの臨時大總統のポストを袁世凱に譲らねばならなかった。袁世凱は当初革命派と協調する姿勢を示したが、まもなく独裁色を強め、議院内閣制で規制しようとした国民党の指導者を暗殺し、反対派を武力鎮圧した。さらに彼は政権強化のために帝制の復活をもくろんだ。さすがにそのもくろみは内外の激しい反対にあって頓挫したが、このことは中国に共和制が容易に根づかないことを示すものだった。ちなみに、この間に第一次大戦が勃発すると、日本の(B イ 山本権兵衛 ロ 大隈重信 ハ 寺内正毅 ニ 田中義一)内閣は山東の旧ドイツ権益の譲渡をはじめとする過大な要求を袁世凱に認めさせたが、それは後に日中対立の火種を生むことになった。

袁世凱の死後も中華民国の政権は彼の配下の北洋軍の系統を引く軍閥たちの争奪的になった。その中で台頭した(C イ 呉佩孚 ロ 段祺瑞 ハ 馮国璋 ニ 張作霖)は國務總理として北京政府の実権を継承した。彼は日本との関係を深め巨額な資金援助を得て他の軍閥勢力との対立を深めた。孫文は1917年に(D イ 重慶 ロ 南京 ハ 広州 ニ 武漢)に軍政府を樹立して、軍閥政府に対抗したが、ついに全国統一を果たせなかった。

しかし、このように「民国」の実現からほど遠い現実に対し知識人や青年・学生を中心として脱出口を探る動きが徐々に芽生えてきた。(E イ 魯迅 ロ 蔡元培 ハ 胡適 ニ 陳独秀)は、民衆に無自覚的に「人を食ってきた」現実を悟らせ、文学の実践活動を通して民衆の啓蒙に努めた。こうした動きはやがて中国に新たな革命を生む気運をもたらすことになった。

(ハ) 辛亥革命とほぼ同じ頃、トルコにおいても革命運動が起こった。以下、その経過を述べた文章を読み、(F) ～ (J) にもっとも適切な語句を記入しなさい。

アブデュル・ハミト2世の専制体制を批判し、立憲制の確立をめざす「統一と進歩委員会」、すなわち「(F) トルコ」と通称される政治結社が1908年に無血革命を実現し、かつての宰相(G)が制定した憲法の復活を皇帝に認めさせた。しかし、その政権はまもなく権力の独占化を起こし、第一次大戦で敗北を喫して瓦解した。この結果、トルコは連合軍の占領によって分割の危機にさらされるに至った。こうした状況の下、国内に新たなトルコ民族国家を樹立しようとする気運が勃興し、ムスタファ・ケマルを中心とする勢力が祖国解放戦争に立ち上がった。ケマルはアンカラに政府を樹立し、(H)軍を破ってイズミルを奪還した。そして(I)制を廃止し

て名実ともにオスマン帝国を滅ぼした。さらにその後の1923年にはローザンヌ条約を結んで（ J ）条約を改定し、主権を回復することに成功した。ここにトルコは革命を達成し、共和国を建設するに至った。